

2022年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2022年1月12日

上場会社名 株式会社マックハウス 上場取引所 東
 コード番号 7603 URL <https://www.mac-house.co.jp>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 坂下 和志
 問合せ先責任者（役職名） 執行役員管理部長（氏名） 佐滝 実 (TEL) 03-3316-1911
 四半期報告書提出予定日 2022年1月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2022年2月期第3四半期の業績（2021年3月1日～2021年11月30日）
（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年2月期第3四半期	13,512	△8.7	△637	—	△489	—	△725	—
2021年2月期第3四半期	14,795	△24.5	△648	—	△608	—	△1,168	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年2月期第3四半期	△46.98	—
2021年2月期第3四半期	△75.88	—

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年2月期第3四半期	13,053	5,502	42.1
2021年2月期	13,484	6,228	46.0

（参考）自己資本 2022年2月期第3四半期 5,495百万円 2021年2月期 6,201百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年2月期	—	0.00	—	—	—
2022年2月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年2月期の業績予想（2021年3月1日～2022年2月28日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,400	△6.7	△800	—	△730	—	△1,100	—	△71.27

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2022年2月期3Q	15,597,638株	2021年2月期	15,597,638株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2022年2月期3Q	150,907株	2021年2月期	192,494株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2022年2月期3Q	15,434,490株	2021年2月期3Q	15,405,191株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因によって、異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(追加情報)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	7
3. 「参考資料」	8
商品別売上高の状況	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間(2021年3月1日~2021年11月30日)における我が国の経済は、段階的にワクチン接種率も高まり、新型コロナウイルス変異株流行により過去最多感染者数を記録した第5波以降、新規感染者数は減少傾向にありますが、既存のワクチンの効きにくい新変異株による感染拡大も懸念され、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社が属するカジュアルウェア業界におきましても、ワクチン接種後の消費・外出行動の回復や消費マインドの上昇が期待されるものの、衣料品に対する消費支出は減少しており、新型コロナウイルス感染症拡大前と比較し、厳しい経営環境が続いております。

かかる状況におきまして、当社は、「多くのお客様に信頼され、魅力あるお店づくり」をスローガンとし、感染症防止策を継続しながら、防疫措置緩和に伴うリアル店舗の客数回復を想定し、社内資格制度である「ジーンズアドバイザー」制度を、「グッドスタイルアドバイザー」制度と改め、店舗での更なる接客スキルの向上を図ると同時に、対面接客の枠を超え、新たな生活様式や価値観の変化に対応すべくサービス改革を行い、SNSなどを活用し、お客様との新たな接点を生み出す取り組みを行いました。また、店舗DX化の一環として、全店舗と本部を繋ぐコミュニケーションツールを導入し、動画を活用した人材教育や店舗作業の標準化などを行い、サービス向上に繋げました。

商品面においては、コロナ禍でアウトドアのニーズが高まる中、エコ素材を使用し、マックハウスオリジナルデザインにてアウトドアブランド「CAPTAIN STAG」を新発売、さらに、冬のあったか機能商品の拡充やお客様からのご要望が多かった大きいサイズの取り扱い開始など、生活密着型の品揃えを強化しました。また、リサイクルコットンや使用済みペットボトル素材から作られたリサイクル繊維など環境に配慮した素材の積極利用を行いました。

販促面においては、モバイル・LINE会員様ご優待セールやSNSを活用したキャンペーンのほか、ブラックフライデー半額セールなど意欲的にプロモーションを展開し、客数の回復に努めました。また、オンラインストア内でも新商品紹介、スタッフコーディネート提案、WEBマガジンなど、コンテンツを一層充実させ、在宅からでも、リアル店舗同様にお買い物時間をお楽しみいただけるよう取り組みました。

当第3四半期累計期間における売上概況としては、新型コロナウイルス感染症防止のための不要不急の外出自粛、営業時間短縮が大きく影響した昨年度と比較し、第1四半期は持ち直し傾向が見られたものの、第2四半期以降、新型コロナウイルス感染症拡大状況の影響による客数の減少が続きました。

これらの結果、既存店売上高は、前年同四半期比0.8%増、既存店客数は7.0%減、既存店客単価は8.4%増となりました。

また、当第3四半期累計期間末の店舗数は、16店舗の出店、23店舗の閉鎖により、329店舗(前年同四半期比35店舗減)となりました。

利益面につきましては、売上高の減少に伴い、売上総利益は前年同四半期比90.0%となりました。

経費面におきましては、昨年は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、来店促進を行う広告活動を自粛したため、当第3四半期累計期間における販売費は増加しておりますが、店舗数の減少、一般管理費の抑制により、販売費及び一般管理費は前年同四半期比9.3%減となりました。

これらの結果、当第3四半期累計期間における売上高は13,512百万円(前年同四半期比8.7%減)となりました。また、営業損失は637百万円(前年同四半期は営業損失648百万円)、経常損失は489百万円(前年同四半期は経常損失608百万円)、四半期純損失は725百万円(前年同四半期は四半期純損失1,168百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ430百万円減少し、13,053百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末に比べ288百万円減少し、9,341百万円となりました。これは主に現金及び預金が1,526百万円減少した一方で、売掛金が537百万円、商品が727百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ142百万円減少し、3,712百万円となりました。これは主に敷金及び保証金が168百万円が減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ294百万円増加し、7,550百万円となりました。

流動負債は、前事業年度末に比べ399百万円増加し、4,982百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金が554百万円増加した一方で、電子記録債務が90百万円減少したこと等によるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ104百万円減少し、2,567百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ725百万円減少し、5,502百万円となりました。

これは主に、四半期純損失を725百万円を計上したこと等によるものであります。

総資産に占める自己資本比率は42.1%となり前事業年度末に比べ3.9ポイント減となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年9月15日付「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました業績予想に変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が長期化することで、当社の経営に影響を及ぼすリスクがありますが、当社の手元流動性に関して、2022年2月期第3四半期末時点において、35億円の現金及び預金を保有する一方、銀行借入金はなく、十分な手元流動性を確保しております。今後も、経費抑制や在庫水準のコントロールによりキャッシュ・フロー管理を徹底し、十分な手元流動性の確保に努めてまいります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2021年2月28日)	当第3四半期会計期間 (2021年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,039	3,513
売掛金	436	974
商品	3,841	4,569
前払費用	195	180
その他	116	104
流動資産合計	9,629	9,341
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	65	61
建物附属設備（純額）	601	604
構築物（純額）	11	9
車両運搬具（純額）	0	—
工具、器具及び備品（純額）	156	154
リース資産（純額）	1	15
土地	173	173
その他	35	2
有形固定資産合計	1,046	1,021
無形固定資産	113	154
投資その他の資産		
長期前払費用	53	54
敷金及び保証金	2,641	2,472
その他	1	10
貸倒引当金	△3	△2
投資その他の資産合計	2,694	2,535
固定資産合計	3,854	3,712
資産合計	13,484	13,053

(単位:百万円)

	前事業年度 (2021年2月28日)	当第3四半期会計期間 (2021年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,118	1,672
電子記録債務	2,178	2,087
ファクタリング債務	113	145
未払金	213	155
未払法人税等	173	135
未払費用	512	660
賞与引当金	41	13
ポイント引当金	5	3
店舗閉鎖損失引当金	22	9
資産除去債務	28	12
その他	176	85
流動負債合計	4,583	4,982
固定負債		
退職給付引当金	1,660	1,601
転貸損失引当金	138	53
長期預り保証金	155	152
資産除去債務	659	679
繰延税金負債	36	38
その他	21	42
固定負債合計	2,672	2,567
負債合計	7,255	7,550
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,617	1,617
資本剰余金	5,299	5,299
利益剰余金	△602	△1,332
自己株式	△113	△88
株主資本合計	6,201	5,495
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	0	0
評価・換算差額等合計	0	0
新株予約権	26	7
純資産合計	6,228	5,502
負債純資産合計	13,484	13,053

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期累計期間 (自2020年3月1日 至2020年11月30日)	当第3四半期累計期間 (自2021年3月1日 至2021年11月30日)
売上高	14,795	13,512
売上原価	7,404	6,858
売上総利益	7,390	6,653
販売費及び一般管理費	8,039	7,290
営業損失(△)	△648	△637
営業外収益		
受取利息	1	1
受取家賃	219	222
その他	58	124
営業外収益合計	280	347
営業外費用		
支払利息	0	0
不動産賃貸費用	197	196
店舗休止費用	20	—
その他	21	1
営業外費用合計	240	199
経常損失(△)	△608	△489
特別利益		
受取違約金	—	15
特別利益合計	—	15
特別損失		
固定資産除却損	5	0
店舗閉鎖損失	9	6
減損損失	262	129
店舗閉鎖損失引当金繰入額	74	—
リース解約損	107	—
特別損失合計	459	136
税引前四半期純損失(△)	△1,068	△610
法人税、住民税及び事業税	120	112
法人税等調整額	△19	2
法人税等合計	100	114
四半期純損失(△)	△1,168	△725

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症拡大による影響について、国内でのワクチン接種の加速により、経済活動正常化の期待は高まるものの、依然として先行き不透明な状況が続き、経済活動正常化には相応の時間を要することが想定されます。現時点で入手可能な情報をもとに、当第3四半期会計期間における会計上の見積り（固定資産の減損会計の適用等）については、当事業年度末においても、新型コロナウイルス感染症拡大による影響の見通しは不透明な状況が続くことを前提として判断しております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当第3四半期累計期間（自 2021年3月1日 至 2021年11月30日）

当社は衣料品等小売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

3. 「参考資料」

商品別売上高の状況

商品別	期別 前第3四半期累計期間 自 2020年3月1日 至 2020年11月30日	当第3四半期累計期間 自 2021年3月1日 至 2021年11月30日	前年同四半期比	増減
メンズトップス	4,274百万円	4,164百万円	97.4%	△110百万円
メンズボトムス	2,694百万円	2,585百万円	96.0%	△108百万円
レディーストップス	2,352百万円	2,339百万円	99.5%	△12百万円
レディースボトムス	1,584百万円	1,448百万円	91.5%	△135百万円
キッズ	1,871百万円	1,656百万円	88.5%	△214百万円
その他	2,018百万円	1,316百万円	65.2%	△701百万円
合計	14,795百万円	13,512百万円	91.3%	△1,283百万円

(注) 「その他」はインナー・レッグ、雑貨等であります。